吾妻山周辺の地殻電気伝導度構造

A Magnetotelluric Exploration for Crustal Electrical Conductivity Distribution beneath around Azuma Volcano, Northeastern Japan

*市來 雅啓[1]、海田 俊輝[1]、中山 貴史[1]
*Masahiro Ichiki[1], Toshiki Kaida[1], Takashi NAKAYAMA[1]

1.東北大学大学院理学研究科
1.Graduate School of Science, Tohoku University

2015年9月4日から17日にかけて吾妻山大穴火口を中心とする約20km四方の領域に16点を設けて３次元地殻電気伝導度構造を推定する為の地磁気地電流(MT)観測を行った．データは各観測点32Hzサンプリングを3日間,1024Hzサンプリングを30時間それぞれ取得した．取得したデータはMetronix社procMTソフトウェアでMT応答関数を計算し，それらの応答関数を用いて位相テンソル解析及び3次元電気伝導度構造推定を行った．位相テンソル解析では広域にわたって構造の3次元性が高く不均質性が高い傾向を示す観測点が多い．本発表ではWSINV3DMT（e.g. Siripunvaraporn et al., 2009）を用いて推定した3次元電気伝導度構造を示し，その特徴とそれを基にした吾妻山の地殻深部からのマグマ・熱水供給過程を議論する．
[謝辞] 地熱技術開発（株）御中および日鉄鉱コンサルタント（株）御中よりMT参照点データを御提供頂きました．記して感謝致します．

キーワード：電気伝導度
Keywords: electrical conductivity

©2016. Japan Geoscience Union. All Right Reserved.